

青木村子どもはつらつネットワーク通信

令和3年度 第196号 3月1日
青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行

今年度も新型コロナウイルスの感染を考慮して、予定されていた「子育てフォーラム」は残念ながら中止となりました。コロナ禍でも頑張っている各委員会の活動の様子を小学校の島脇教頭先生にお聞きしました。



今年度の保小中一貫教育の取り組み

保小中一貫教育委員会事務局 島脇 謙（青木小学校教頭）

今年度も『村の子は村で育てる』という理念のもと、教育委員会を中心に保育園・小学校・中学校が連携し、保小中一貫教育を進めてまいりました。今年度も新型コロナウイルスの感染を考慮して11月に予定されていた子育てフォーラムは中止となりましたが、各委員会でコロナ禍でも感染予防を徹底して活動してきました。各委員会の活動の様子を紹介します。

保小連携委員会

園児が小学1年生の活動を見学・交流することで小学校の様子がわかり、入学への期待を膨らませることができました。

今年度の見学・交流

- 6/17 1年生の音楽会練習を見学。
- 7/14 1年生のプール授業を見学。その後、年長児のみプールに入って遊び、小学校のプールを体験。
- 11/25 1年生の焼きいも大会へ参加。いもが焼けるまで、ペアを中心に1年生と年長児が自由に遊びを楽しむ。



「焼きいも、おいしい!!!」

特別支援教育委員会

保育園—小学校、小学校—中学校間で、子どもにとってどのような支援が良いのか情報交換をして、子どもたちの支援に活かすことができました。今後も保小間・小中間でのスムーズな移行ができるように、関係機関との情報交換や連携を図っていきます。

5か条委員会

「あおきっ子 教育ポイント5か条」の中に「スマホは持たせない」とありますが、学校で一人1台の端末が利用されるようになり、時代の流れにそぐわなくなりつつあります。小中連携委員会と連携して利用の実態を把握し、実態に合わせたふさわしい条文を検討しました。



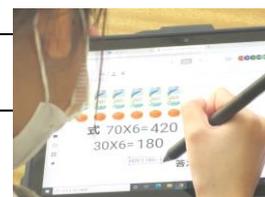
〈浮き上がった課題〉

- 学校で一人1台の端末が使用可能となり、「持たせない」指導から「積極的活用」へ転換されてきた。
- 「積極的活用」がなされる中で小、中それぞれで使用ルール上の問題点が指摘されてきた。



〈今後の活動〉

- 小、中でまず積極的に活用し、教師自身が活用の幅を広げる。
- それぞれの活用例を持ち寄り、今後の可能性を探ると共に、児童生徒が使用する上でのルール設定の方法について意見交換する。
- 保小中それぞれの発達段階において、なにを促すべきで、なにを（内容、時間）制限するべきか、を検討し、保小中一貫した指導の青木モデルを策定する。
- 5か条の「メディアはルールを決めて」の内容を時代の流れに合わせた文言に変えていくことを提案する。



学校ではタブレットを活用する機会が増えました。活用の利点や課題は最後にまとめました。

タブレットの活用の状況 ～ICT活用の今年度の取り組みについて～

(1) めざしてきたこと

タブレット端末を使って、自分で考えたり、友だちの考えから学んだりする授業が進められるように考えてきました。

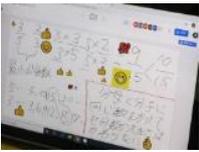
(2) 黒板のプロジェクターと個別タブレットの活用の現状について

①青木小学校の取り組みについて



学習形態	学習場面	本校の現在の活用
一斉学習	教員による教材の提示	デジタル教科書などを活用しています。
個別学習	個に応じる学習	「Google Jamboard」「Google Forms」「Google スプレッドシート」やドリルを活用しています。
	調査活動	授業の調べ学習で活用しています。
	表現・制作	「Google スライド」を活用しています。 プログラミングの授業で活用しています。
	家庭学習	(タブレットの家庭持ち帰りはしていません。)
協働学習	発表や話し合い	友だちの考えを参考にして、自分の考えを深めています。
	協働での意見整理	「Google Jamboard」を活用し、意見をまとめています。

②子どもたちの取り組みの様子について（授業の様子の一例）

	<p>個別学習と発表や話し合い（算数）「Google Jamboard の活用」</p> <p>個別のシートに考えた後に、友だちの考えをタブレット上で見て、自分の考え方を確認したり、新たな考え方に気づいたりしました。『いいね！』マークを付けて、お互いの考えのよさを認め合うこともできました。今後はペアやグループでタブレットを見合いながら、口頭で説明することにも取り組んでいきます。</p>
	<p>個に応じる学習（学習のまとめ）「Google Forms の活用」</p> <p>教師が授業内容の確認テストを作成しました。子どもたちが問題を解いて送信すると、すぐに結果が出ます。個別の得点、平均点、得点の度数分布、問題の正答率などがすぐにわかります。児童・教師の授業のまとめや見返しになりました。</p>
	<p>個に応じる学習（休み時間、追加の課題として）「ドリルの活用」</p> <p>漢字の読み書き、計算、英語の聞き取りなど様々なドリルがあり、自分で学習内容を選択できました。採点もすぐにでき、自分の学習の理解がすぐにわかりました。また、繰り返し学習することができました。</p>
	<p>調査活動（生活科 植物・虫の撮影）「カメラ機能の活用」</p> <p>カメラ機能を使い、植物や虫を自分で撮影しました。画面を拡大することで、細部を観察することもできました。プリントして、まとめに使うこともできました。</p>
	<p>表現・制作（社会科）「Google スライドの活用」</p> <p>わかりやすくまとめることで、学習内容の理解を深めることができました。写真や表の挿入など慣れるまでは時間がかかりましたが、まとめ方になれると、各教科の学習や総合的な学習の時間、児童会活動などに役立てることができそうです。</p>

〈タブレット活用の利点〉

- 授業中に学習課題をはやく終えた児童が、ドリルを利用し補充問題に取り組むことができます。
- 社会科の学習で、グーグルスライドにまとめる学習では、教科書の大切な所を自分で見つけたり、資料を読み取ったりと、主体的な活動につながります。
- 体育の実技や国語の音読等で、カメラ機能を使い自分の姿を映像で撮って確認することで、具体的に自分の課題をもって、学習に取り組むことができます。
- 算数で一人ひとりが個別に割り当てられたジャムボードに考え、その後、友だちの発表を聞いたり、見たりして自分の考えと同じ点や違う点を意識しながら学習ができます。発表の場で、画面を通して、発表者や教師が、図や言葉などを書き加えられることも利点です。
- グーグルフォームで確認の問題を作成しておくことで、学習のふり返りの時間に、個々や学級全体の授業内容の定着度をすぐに把握することができます。

〈タブレット活用の課題〉

- 画面に向かっている時間が長くなり、どうしても自分で考える学習になりやすくなってしまいます。タブレットを利用した児童同士のかかわりを工夫して行くことが必要です。
- 学習の過程がノートに残りにくいです。ノートに残すポイントをはっきりさせるなどの工夫が必要です。
- タブレットという性質上、学習と関係のない動画閲覧やチャット等の使用もできてしまいます。ルールづくりと、それを守る子どもたちの意識を高めていく必要があります。

小中連携委員会

<今年度の活動>

昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響で小中学生の交流ができなかったため、職員による情報交換を行った。

- ・小中合同授業づくり研修
- ・第1回小中連絡会の際の授業参観
- ・小中合同地区子ども会
- ・小学校の授業参観への中学校職員の参加
- ・文化祭の見学（SDGs発表・意見文発表）
- ・第2回小中連絡会（新入生の様子・特別支援学級・養護教諭）
- ・中学生による学校説明会、中学校教師による体験授業（新型コロナウイルスの影響により延期）



<次年度に向けて>

- ・昨年度行うことができなかった、交流の場や情報交換の場は必要だと実感した。
- ・義務教育の9カ年を見通して考えた際に、児童・生徒の交流も大事にすると共に、学習面においても職員が情報交換・意見交換をする場があると、9年間の見通しをもった学習支援ができる。以上のことから各校の授業参観や、短時間でも教科会の場を設定できるとよいと思う。

保健教育委員会

<今年度の活動>

新型コロナウイルスにより、私たちの生活や気持ちがどのように変化しているのか保小中それぞれ出し合い、コロナ禍での懸案事項を出し合いました。そして、コロナ禍でもできること、やれることを検討してきました。

【懸案事項の内容】

- 保育園より
 - ・発達への支障 《特に口元の発達》←玩具による遊びができない
 - マスクにより大人の口元が見えない
- 小学校より
 - ・視力・体力・口腔環境・家庭での食の低下
 - ・親子の関係の変化
- 中学校より
 - ・運動不足
 - ・人との関わりが難しくなっている
 - ・メディア問題



<次年度に向けて>

今年度出し合ったなかで、特に必要と思った事項について、コロナ禍でもできること、やれることを提案していきたいと考えています。

村の保健師さんから「青木村支援ノート」を作成していただいた。まだ、実用化はしていないが、関係のある委員会と連携して実用化を目指していきたい。

子育て委員会

今年度のテーマ「地域へ（人と）つながっていこう」に関わって、子どもたちがどのように地域や人と関わってきたか、まとめました。保育園、小学校、中学校に掲示して来校した多くの人に見ていただきます。小学校の掲示物を紹介します。 ※紙面上、簡略化しています。

地域の 人・もの・こと つながる 青木小学校

1年生

活動名 「ほいくえんとかうりゅうしょう」（生活科 行事）

実践日 6月17日（校内音楽会前日） 7月14日（水泳参観）

活動の様子 園児を前に緊張感を程よくもつことができ、上手に演奏できました。また、大きな拍手をもらえたことが児童の自信になりました。園児に見てもらったことや拍手をもらったことから、音楽会本番堂々とした発表につながりました。



2年生

活動名 「青木ゆうびんきょくを見学しよう」（生活科）

実践日 10月19日（生活科体験学習）

活動の様子 郵便局や配達員の方に親近感が湧いた様子でした。今では手軽に情報が好きな時に入手に入る時代ですが、人に思いや情報を伝えることの大切さに気付いていける機会となりました。



3年生

活動名 「農家の仕事」（社会科）

実践日 6月1日

活動の様子 最初は何気なく食事をしていた児童が、農家の方が様々な工夫や努力で農作物に付加価値をつけていることを知り、感謝の気持ちを持ち、食事をするようになりました。いつも食事に使われている食材が、どのように自分のもとへ届くのか興味を持ち、調べることができました。



〈畑に行き、直接お話を聴きました〉



〈お店や道の駅に商品として並ぶまでを、実際に見てきました〉



4年生

活動名 「住みよいくらしをつくる」(社会科 社会見学)

実践日 6月25日

活動の様子 当り前のように水を使っていた児童が、見学を通して水を大切に使い、できるだけ水を汚さないようにしたい、と意欲をもてました。

浄水場では、水を凍らせない工夫を知り、できたての水を飲み、そのおいしさに驚いていました。汚水がどんどんきれいになっていく様子を見て、微生物の大切さを知り、下流の人たちの飲み水になるために、きれいな水にしてから川へもどすことが分かった様子でした。



5年生

活動名 「お米づくり」(総合的な学習の時間)

実践日 5月 田植え 9月 稲刈り 10月 脱穀

活動の様子

◆田植えの感想

- だろの中て足がべちょべちょになって足が重かったです。足を洗うときに水が冷たくて気持ちよかったです。
- だろの中には虫がたくさんいた。生き物がたくさんいるんだなと思った。
- だろの中に入ったらすごく気持ちよくて、だろが手や足についても気にならなかったので良かったです。



6年生

活動名 「中学生との交流」(こまゆみ祭 見学)

実践日 9月24日

活動の様子 意見発表会の見学を最初にさせていただき、入場の際は緊張した様子でした。中学生の発表を聞き、そのレベルの高さを感じていました。



各委員長を中心にコロナ禍でもできる活動を進めていただきました。子どもを地域で育てることは、青木村の特色、そして財産だと感じました。来年度もこの大きな財産を磨き、さらに輝かせていきたいと思ひます。活動を支えていただひている地域の方々や保護者のみなさまに感謝申し上げ、今年度の活動を一区切りいたします。ありがとうございました。



編集後記

2年続けて「子育てフォーラム」を開催することができませんでした。来年度はコロナが収束し、学校、保育園での活動や行事が予定通りに行われることを願ひます。

